

令和元年度第1回東京都石油コンビナート等防災本部会議議事録

- 1 日時
令和元年12月23日 11:00～11:45
- 2 会場
東京都庁第一本庁舎7階庁議室
- 3 出席委員
別表のとおり
- 4 議事（会議における発言内容は別紙のとおり）
 - (1) 東京都石油コンビナート等防災計画について
 - (2) その他
- 5 配布資料
 - ・資料1-1 東京都石油コンビナート等防災計画の概要
 - ・資料1-2 東京都石油コンビナート等防災計画における主な対策
 - ・東京都石油コンビナート防災本部本部員名簿

<p>事務局 (有金総合防災部長)</p>	<p>只今より東京都石油コンビナート等防災本部会議を開催いたします。 議事に入るまでの間、司会進行を務めさせていただきます、東京都総務局総合防災部長の有金でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に先立ちまして、東京都石油コンビナート等防災本部長の代理を務めます多羅尾副知事からご挨拶申し上げます</p>
<p>防災本部本部長代理 (多羅尾副知事)</p>	<p>東京都副知事のと多羅尾でございます。本日は、年末の大変お忙しい中にもかかわらずお集まりいただき、誠にありがとうございます。会議の開催に当たり、本部長の東京都知事に代わりまして、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>近年、全国各地で大規模災害が頻発しています。今年も、大規模水害が全国のみならず、都内でも相次ぎました。台風15号では、島しょ地域をはじめ、強風による住宅への被害が多数発生しました。また、台風19号では、三宅島の噴火以来、19年ぶりに東京都災害対策本部を設置しました。各市町村にリエゾンを事前に派遣するなどの対応を行いました。都内では1500棟以上が床上・床下浸水するなど、甚大な被害が発生しました。</p> <p>また、30年以内に70%の確率で発生するとも言われている首都直下地震についても、いつ発生しても不思議ではない状況です。</p> <p>こうした中、本会議のテーマであります石油コンビナート災害は、自然災害と同様にひとたび発生するとその影響が大きいことから、予め十分な対策を講じておくことが必要です。</p> <p>このため、昨年11月、東京都石油コンビナート等防災本部を開催し、東京国際空港地区におけるコンビナート防災を進めるための計画を策定することとしました。</p> <p>この間、どのような災害がどのような規模で起こりうるのか、専門家の方々のご知見を頂き、災害想定を行い、ここにいらっしゃる関係機関の皆様のご協力も頂戴しながら、防災計画の検討を進めてまいりました。</p> <p>首都圏の空の玄関口でもある東京国際空港は、日本の成長、地域の発展に、極めて重要な役割を果たしているため、徹底した防災の取組が重要となります。</p> <p>本日は、この防災計画案についてご説明いたしますので、ご審議のほどお願い申し上げます。</p>
<p>事務局 (有金総合防災部長)</p>	<p>ここからは、議事の進行につきまして、多羅尾副知事をお願いします。</p>
<p>多羅尾副知事</p>	<p>それでは、議事に従って進めてまいります。「東京都石油コンビナート等防災計画について」事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (古賀防災計画担当部長)</p>	<p>東京都石油コンビナート等防災計画、以降、「計画」と申し上げます、について、資料1-1及び資料1-2により、ご説明させていただきます。</p> <p>まず、資料1-1をご覧ください。計画策定の背景でございます。東京国際空港にて航空機に燃料を供給する事業者である三愛石油株式会社が2019年末までにタンクを増設する見込みとなったことから、その貯蔵・取扱い</p>

量が10万キロリットルを超えることとなりました。このため、石油コンビナート等災害防止法に基づいて、都に石油コンビナート等防災本部を設置し、この本部にて東京都石油コンビナート等防災計画を策定することとしました。

計画の目的ですが、1つ目は大量の石油等が扱われている地域である特別防災区域に係る災害の発生及び拡大を防止することです。この特別防災区域につきましては、資料右上の図にてお示した、東京都大田区羽田空港の赤い線で囲まれた範囲となります。名称は、東京国際空港地区と定められております。

2つ目は、総合的な防災対策の推進を図り、関係する地域の住民等の生命、身体及び財産を保護することとございます。

計画のポイントとしては3点ございます。

まず1点目は、特別防災区域に対して、大量の石油等を取り扱う特定事業者と、都、区、その他の防災関係機関が一体的な防災活動を実施することとあります。

2点目は、平常時の事故災害や地震等の自然災害など、特別防災区域に係る災害想定を実施し、それぞれの災害の状況に応じて特定事業者、防災関係機関が行うべき業務の役割分担を明確にしたこととございます。

3点目は、予防、応急の各フェーズに応じた対策を具体的に記載したこととございます。

こちらについては、資料1-2に、計画における主な対策を事前対策、発災時対策、発災後対策とフェーズごとに分け、まとめておりますが、このうち、いくつか主要なものを資料1-1の中段、背景を赤く網掛けした箇所に記載しておりますので、ご覧ください。

まず、災害の発生を予防する対策として、自衛防災組織、特定防災施設等及び防災資機材等の整備をあげております。この一例として、特定事業者が写真でお示しているような消防車両を配備することとなります。

このほか、危険物施設に関する情報共有や、関係機関等の防災教育、訓練の実施について記載しております。

次に、発災時の応急活動としては、特定事業者からの速やかな通報、防災本部による応急措置に必要な情報の収集、伝達をはじめ、様々な災害の状況に応じた各機関の活動要領を記載しております。写真のように海上に油が流出した状況では、オイルフェンスを展開し、拡大を防止する応急措置をとることとなります。

また、空港利用者及び地域住民等への情報提供も各機関と連絡調整の上実施することとしております。

これらの各種対策は、空港の防災活動との連携はもとより、事業所間の相互応援や流出油防除に関する相互協力といった関係機関等による相互連携の上で実施していくこととなります。

以上、本計画に基づく防災対策は、防災訓練等を通じて継続的に検証し、見直していくことで実効性を確保いたします。

最後になりますが、計画策定までのこれまでの行程として、令和元年8月27日に幹事会にて計画素案を承認いただきました。その後、計画素案を公表し、パブリックコメントを実施いたしましたが、意見等はございませんで

<p>多羅尾副知事</p>	<p>した。 東京都石油コンビナート等防災計画についての説明は、以上でございます。</p> <p>ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見等はございませんでしょうか。</p> <p>池上本部員お願いします。</p>
<p>池上本部員</p>	<p>市民防災研究所の池上三喜子と申します。</p> <p>内閣府の防災白書令和元年版によると、消防庁においては、石油コンビナート等災害防止体制の充実強化、および、石油コンビナート等における自衛防災組織の技能や士気の向上を図るための予算が組まれています。</p> <p>また、消防庁および経済産業省においては、石油、高圧ガスを併せて取り扱う事業所の新設等に際し、事業所内の施設地区の設備等について審査するとともに、必要な助言を行うための予算が組まれています。</p> <p>2019年8月28日東京都では、石油コンビナート等災害防止法第31条の規定に基づき、大量の石油が扱われている特別防災区域に係る災害の発生、および、拡大防止のための総合的な防災対策の推進を図り、関係地域住民の生命、身体、財産を保護することを防災計画の目的にしていることは、ご説明のあったところです。</p> <p>東京国際空港においては、航空機に燃料を供給する三愛石油株式会社のタンクが増設されたことにより、石油コンビナート等災害防止法に基づく対応が必要になりました。防災資機材等の一例として、東京消防庁ホームページより引用した本日の資料1-1の左下の写真のような車両を三愛石油株式会社が購入し、整備することになっていると伺っています。事業所の自助として良い例だと思います。</p> <p>過去の石油コンビナート火災に目を向けますと、2003年に発生した十勝沖地震により、製油所の大型浮屋根式タンクの全面火災が発生しましたが、この消火活動は困難を極めた事例であったと記憶しています。</p> <p>また、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震及び、茨城県沖地震を契機に千葉県市原市の石油コンビナートに設置している液化石油ガスLPG出荷装置および貯槽設備において火災・爆発が発生し、2011年3月21日に鎮火したという事例もありました。</p> <p>私が気がかりなことは、いつ起きてもおかしくないと言われている首都直下地震・南海トラフ地震のような大規模地震や、それに伴う大津波災害の発生を想定した備えができていくかという点です。自助、共助、公助それぞれが、想定外の災害だったと言わない備えをしておきたいと思います。</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p>
<p>事務局 (古賀防災計画担当部長)</p>	<p>ご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>お話がありましたとおり、これまで、コンビナートにおいて大規模な事故が発生したことがありました。特に大型の屋外タンクは、過去の地震を契機に、耐震対策が強化されているところですが、万が一の事故発生に備えた取り組みは不可欠でございます。</p> <p>石油コンビナートの災害は、発生すると大きな被害をもたらす可能性がご</p>

	<p>ざいますので、ご発言いただいたとおり、事業者の防災設備の充実による自助の強化はもとより、共助としての事業者同士の応援体制や、公助としての各機関の連携をより強固なものとするため、今後も本部として対策に取り組んでまいります。</p>
多羅尾副知事	<p>重川本部員お願いします。</p>
重川本部員	<p>常葉大学で防災を教えております重川と申します。</p> <p>年が明けると阪神淡路大震災から四半世紀となります。私は被災地に十日目に入り、その時点では尼崎までしか電車が通っておらず、神戸まで20キロほど歩いて見てまわりました。</p> <p>特徴的に感じたのは、高層ビル、地下鉄、地下街といったいわゆる一般に危険と思われている施設には被害がほとんどなかったことです。ガソリンスタンドは身近な危険物施設ですが、もらい火はあったものの、ガソリンスタンド自体が発生させた被害は一か所もありませんでした。むしろ延焼防止帯となり、後背の市街地への延焼を食い止めました。危険と思われていた施設は、意外としっかり残っていました。</p> <p>今回の石災法に基づく特別防災区域も同様ですが、危険性が高い施設や不特定多数の方が関わる施設は、厳しい安全基準が設けられています。その結果、これら施設は阪神大震災でも大事には至りませんでした。一方、見落としていた住宅からの死者が9割に上りました。</p> <p>今回の計画を拝見していて、事前対策、発災時対策、発災後対策とありますが、重要なのは事前対策であり、今までの大規模災害でも石油コンビナート等を含め危険と思われていた施設が事前対策をしっかりとしていたため、大事に至らなかったと認識しています。</p> <p>このような本部会議もその一つですが、計画の策定や、訓練、情報共有といった日常の取り組みが一番大切な防災対策であり、結果として、施設の日々の安全な利用や機能維持が果たされることとなります。</p> <p>今回新たに石災法に基づき必要となったことについても、同様に各機関が真摯に対応していくことが重要だと思いますが、計画の中で訓練に触れています。現時点ではどのような訓練を想定されていますか。</p>
事務局 (古賀防災計画担当部長)	<p>ご意見ありがとうございました。屋外タンクの完成は年末を予定しているところですが、年を明けて2月の半ばに防災訓練を実施すると聞いております。その後の具体的な訓練については、三愛石油株式会社をはじめ、共助、公助の対応を実災害を想定した上で確認できるよう、内容を検討してまいります。</p>
多羅尾副知事	<p>日本赤十字社様お願いします。</p>
日本赤十字社東京都支部 高桑事業部長	<p>日本赤十字社の高桑と申します。</p> <p>この東京国際空港地区では、東京国際空港を中心に航空機事故を想定した訓練を関係機関が連携して実施しています。この訓練は隣接する川崎市、神奈川県との共同でも実施しているところですが、石油コンビナート等防災計</p>

	<p>画においては、川崎市もしくは神奈川県等の近隣縣市とどのような応援体制が講じられているのでしょうか。</p>
<p>多羅尾副知事</p>	<p>他の自治体との連携とのことですので、事務局から回答願います。</p>
<p>事務局 (古賀防災計画担当 部長)</p>	<p>近隣の縣市との応援体制については、九都縣市との協定などを活用し対策を進めてまいります。</p>
<p>多羅尾副知事</p>	<p>他にはよろしいでしょうか。 それでは東京都石油コンビナート等防災計画につきまして、本部として決定したいと存じますが、ご異議ございませんか。 (異議なし) それでは、「東京都石油コンビナート等防災計画」については、原案のとおり決定いたします。 続きまして、(2)「その他」、事務局より説明願います。</p>
<p>事務局 (古賀防災計画担当 部長)</p>	<p>特別防災区域におきましては、ハイドラントシステムと呼ばれる仕組みにより航空機に燃料が供給されています。 このハイドラントシステムとは、航空機燃料を貯蔵する地上のタンクから地下の配管を経由し、空港の各箇所へ送油され、航空機に給油されるという仕組みです。 このほど、特定事業者である三愛石油様より、このシステムに関する資料を提供いただきました。特別防災区域の防災に関わる各機関に資するものとして、この機会に、ご紹介させていただきます。 では映像資料をお願いします。 (資料映像6分程度) 映像資料については、以上となります。 補足ですが、このハイドラントシステムだけでなく、タンクローリーを用いて航空機に給油する場合もあるとのこと。 ハイドラントシステムの紹介は、以上でございます。</p>
<p>多羅尾副知事</p>	<p>三愛石油様からの資料でしたので、早川常務取締役支社長からご発言ありましたらお願いします。</p>
<p>三愛石油株早川常務 取締役羽田支社長</p>	<p>三愛石油株式会社羽田支社長の早川でございます。 ただいま弊社のハイドラントシステムについて、ご紹介をいただいたところですが、併せて弊社の給油施設の現況と今後の見通しについて、この場を借りて各機関の皆様にお伝えいたします。 昨年、この本部会議でも申し上げたとおり、新設の2基屋外タンクは、明後日に消防完成検査を予定しており、年明けより来年2月の運用開始に向けて機器等の運転準備を計画しているところでございます。 また、自衛防災組織の活動に要する消防車両は、先週完成検査に立会い、</p>

<p>事務局 (古賀防災計画担当 部長)</p>	<p>来年1月に納車となります。</p> <p>自衛防災要員については、来年2月の新設タンク運用開始に併せて配置し、訓練ほか設備等の運用について消防署のご指導を基に進めているところでございます。</p> <p>これまでも取り組んできました事故を起こさない対策、そして増強した資機材を活用し万が一の発災時対策、それぞれに着実に取り組み、各機関の皆様と協力してこの地域の安全に寄与してまいりたいと存じます。</p> <p>ご発言をいただき、ありがとうございます。ただいまのご発言や先ほどの映像資料により、安全な給油業務への着実な取り組みを確認することができました。</p> <p>当本部としましても、今回決定いただいた計画に基づきまして、第一に災害を発生させないために予防対策を継続的に取り組み、そして、発災に備えた対応を訓練等で確認・検証してまいります。</p>
<p>多羅尾副知事</p>	<p>他に、ご発言等ございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、以上で、本日予定しておりました議事についてはすべて終了いたしました。会議全体を通して、ご質問等ございましたら、ご発言ください。</p> <p>最後に特別防災区域が所在する大田区の清水副区長より一言いただければと思います。</p>
<p>大田区清水副区長</p>	<p>大田区副区長の清水でございます。</p> <p>本日は松原区長の代理で参っております。</p> <p>特別防災区域が所在する大田区といたしまして、本計画と大田区計画類に基づき、安全対策に万全を期して参りたいと思います。</p> <p>特別防災区域は、そのほとんどを国が管理する羽田空港内に位置するという特殊性があります。ここで発生する災害等に対応するためには東京都、国土交通省空港事務所をはじめ防災関係機関等との連携が必要不可欠と存じます。</p> <p>本計画の策定を通じて、東京都を中心とした防災関係機関との役割分担や相互の連携体制が構築されとありますが、今後、石油コンビナート等防災安全対策を推進していく上で、各機関との連携体制をなお一層、強化していく必要があります。</p> <p>特に、今年の台風第19号では大田区でも甚大な被害を受け、また、各地で災害が発生するなか、近隣住民も空港を取り巻く安心・安全や環境対策等について大きな関心をお持ちになっております。</p> <p>本計画でも地震や高潮災害等の複合事象まで幅を拡げて反映しておりますが、あらゆる観点からリスクを適切に評価し、必要な対策を準備しておくことが求められております。</p> <p>所在区としましては、万が一にも近隣住民に被害が及ばぬよう、ハード面の対策のより一層の充実と、訓練等による検証等による総合的な安全対策の</p>

<p>多羅尾副知事</p>	<p>充実を望んでおります。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>改めて地元区とされましても東京国際空港地区の防災対策が重要との発言を頂戴しました。</p> <p>東京国際空港地区で万が一災害が発生した場合には、東京都だけでなく、首都機能、ひいては日本の機能全体が大きな影響を受けてしまう重大な事態につながります。これまでご発言いただいたとおり、何より備えが大切であり、各種災害対策の実施に際しては、災害の様態に応じて、関係機関の皆様との連携が不可欠でございます。</p> <p>本日おいでいただいた各機関の皆様と協力し、特別防災区域の防災体制に万全を期してまいりたいと思いますので、引き続き、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、進行を事務局へ返します。</p>
<p>事務局 (有金総合防災部長)</p>	<p>これをもちまして東京都石油コンビナート等防災本部会議を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>